丹鶴叢書

117
105
2

東京圖書館

和書門	叢合類	別函	二架	二號	一〇五冊

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

前參議教長卿集

戀哥

讃岐院位

故楠原芳楚納本

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用

神風名義　勾題百首之

續後撰恋一

思久意

ころもの同じなる元をふるめ

悼人自意

をもまくぬ涙のそをいつまでもむせのそられさるいふも

設院住持時の百首の不遇そ

元をへ小そこれもをそぬへしたそこそのまそ

おなしすて後を

ものも社のる事ぬまそとそ

とふれおそそもをそ(ハイ)

いつまをもあそふそてつをなるそこそのまそ

おもそうつ(ころ)をやそ

ひをへて元のやまいもむもをれ

いつまをもぬなそこのつをま

ちてなこふもものそとなる

人ちまをもたふけてまそ

みつそひおしをぬをのせそ

あまもひのひゆものの

まや林をよのこそこそ

思ひのひそまをのみそよ

をやとそいふもぬへし

行不遇意

毎書遇意

後朝待事（本ノ）

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

談咲院位の事附のこと

ゑまさもち一銅のあしそもやそこそ

同五そそう一行思

ささあそさきぬくをこいそ

同五百う一恨と

くいさそこいおなてうう夜こ

談咲院のこ百好

川のをふおるむものうなこそ

かさそう浦のいのおさやをハや

いうさもむおさものなるこあ川

空くふおるくあのようこるかふおそ我もさうる

久ゑさそとそのうさ風そささこ

千載恋二

いのさそう色浪ハまさこおなそ

まみさをあてなこやのあつまさ

ゑこさふるくおさくさんあいむこ

里ゑおさささうくふ行さこいく

ゑこふハこむもおこやちんあるの

ゑさとそのふおいさささめ原のうをうさものむ

浪川ささまさ礼そものいくふ

ゑまさんをむこのこもいハさそる

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

新続古今恋五

[illegible]

千載恋三

[illegible]

続後撰恋三

[illegible]

[illegible]

内裏十五首

[illegible]

後朱雀

[illegible]

千載恋五

[illegible]

清浦新家(こんの)

[illegible]

[illegible]

[illegible]

そのそとをそのめるなるくふさんん

和名抄

独ぬる床よいて杜のよもるみ

歎綾和名抄

又ここおおろさきをそこうよ

あるこおもまつをいたくもよ

寄葉書名

住なるをまもまーもまこ

頃（本ノ）名義暮

おくまとるのやまへやまれまうを

幹屋名

涙ままるまくへなるれは

障名

もこたのこ向のこをしこるもそこおさ

ともふれおる妹をおそて花よこめるの名

を隣名

りのまんへてなおとそこ弁こ人をまる程

障の名

なるもあをそまに天のこめ神て我ちぬる

おをこのまあとこれをまふうの称る

障垣 壱

よとゝきゝねやのくゝもとをゐるこゝろ

ゝゝゝゝとくゝとゝゝゝぬけゝゝもいゝを

田舎 壱

ゝゝゝ井のあゝゝゝゝ到ぬゐの

不知生 壱

あゐ坂のなゝとゝゝをめてゝもむゝ風

返逸車 壱 分歌百首

ワゝゝゝ同ゝゝのあゝゝやゝゝ

謡皮院 壱十ゝゝ時ゐ時

ゑゝ家

さのゝやゐゝぬゝゝの月家のいゝゝ

まつ翁 壱

壱ゝのゝゝゐ海をゐゝゐゝゝ

宴の芸 壱

あゝゝゐまつゐゝゐゝゝゝ

まつ弓 壱

ゐのさまゝやゝゝのゝゐゝゝゝ

宴の能 壱

ゐゝゝく壱ゝゐまゐのゝゝ

寄許子恭
軍のまちきのむまものとていてこころ
もの琴うき
さよふかくねぶりをふく風のうち
もの笛をき
我をてふくへつるる笛なもやーあ
寄薛慈
さそるやとの神のふをとめくをといて
寄催馬樂をき
ちちもものこをくもをきの浮まふをもう
れめんの梅の花とこ

寄郭子をき
よもちちなくおちてふる神まこ
内裏をきを鳥添をき
さそるとその花のかまるはをき
寄更衣をき
神の花のこもるちいふちをてをみの羽衣
薄蟲遇をき
みつこと葬ーをとかをよをとも
見雉をき
かちをいこをとをいひーをへの人を

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

前參議教長卿集

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

新続古今別
新後撰別

詞花春

もゝ花

夏詠

秋月

冬雪

恋

廿八宿のおはなしの序品

方便品
いさゝかも法を聞て皆仏道に成ことを
ときあかし衆のうたがひをのぞきて
仏慧を信ずるやうにせしめたまふ

譬喩品
諸人をして皆ことごとく諸仏の
のこし給へる秘蔵をこうむらしめ
給ふ

藥草喩品
ふたゝびまた宣給ふたぐひなき法の
随喜功徳品
法をきゝ一句一偈をもちて
ひとりの為にとくことを聞ば
ふろうそ

法師品
むさぼりおもふ所のごとくに
宣給ふ法のまゝに
見宝塔品
くまなき月のごとくに
普賢経
なをよく法をまもる事のあるを
念仏時よろこぶ
乃至以一花

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

岩在霊鷲山
誓弘深如海
歴劫不思議
以仏教門出三界苦
令入仏慧
示悟衆生
開方便門
顕真実相
為菩薩道
随応所宜
而得解脱
一切種智
他縁大乗
五性各別

覚心不生
八不中道
一道無為
一乗佛性
秘密荘厳
即身成仏
不浄観
極楽自性
三界唯心

風雅釈
[illegible]
無常思
[illegible]
空本迷
[illegible]
[illegible]
[illegible]
地獄
[illegible]
不敬生戒
[illegible]

[illegible]
不倫盜戒
[illegible]
終報供
[illegible]
願極樂要發四加願我今無力在悪世中何
時能披衆生因茲求生淨土方為衆生應知
念仏修善為業因往生極樂為花報證大菩
提為果報利益衆生為本懐爰修念佛三昧
是第三願行法門無邊誓願知
隨有所伏滅

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

是第二願行　煩惱無邊誓願斷　遠近結良緣
是第一願行　衆生無邊誓願度　積功累德是
第四願行　無上菩提誓願證　自餘衆善例知
不俟

衆生無邊誓願度
いつのさとりをひらくとも我しうみをくいつくすまで
煩惱無邊誓願斷
苦よりくるのまたてゐる塵をなくすとも
法門無邊誓願知
法をもをぬけのあるまでそれをしむなくその種をものこさんこと

無上菩提誓願證
続後拾遺釈　千観法師
らのまふのまつ月をおそもうる
極樂依正功德無量筭分喻今非昕知今舉
十樂而讃淨土猶如一毛滴大海云々而題
此十樂之讃嘆詠其十首之哥頌夫動天地
感鬼神莫宜於和哥又動佛畧感聖衆惟同
者欤謂和哥者我國之語也漢土言偈頌天
竺云唱陀南而顯經論之肝心學佛法之髓
髄以偈頌為規模因茲為我國風俗以和哥
展彼十樂豈非至誠一心之讃嘆乎隨則大

聖文珠者諸佛智母也代飢人正眷斑鳩官
太子之麗藻稱行基菩薩贈霊鷲山釈尊之佳
篇加之弘法者東寺密法之曩祖也涌五七
六義之言泉寄返報於高津禹傳教者天台
圓教之先哲也作三十一字之詞條祈冥加
於杣山矣自尒以降云貴賤云聖凡無以和
哥不通情矣我朩之懇志在極樂以俟哥呈
之其詞云
聖衆来迎樂
[illegible]

蓮花初開樂
[illegible]
身相神通樂
[illegible]
五妙境界樂
[illegible]
快樂無退樂
[illegible]
引接結縁樂

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2
ガラス使用

聖衆倶會樂

見物聞法樂

隨心供佛樂

増進佛道樂

星

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

いそとともなくとりむらの月もおぼろにめぐるの心海をも

　　新堂　みち

あさ霧もるおのの母のをちこちを林の雨にそおぼろしめる

　　滋岐院信市付のうた

鳥羽殿のつくりつくりをゆきのふりつもるにもまさりて

　　同院信市付のうた

春の月のえもいはぬよまでをそ

海路名所　　与題

玉葉雑二　崇徳院御製

とまをふきかへすあまの川舟

　　東山

東山をおろしのかぜにふきたてられて

昔うゑおきけむ人のこころなをいかにもあはれとおもふらん

　　又

ふるさとの池よ毎年つれなくて風ふきわたる波のいくよ

毎年ときてもやよもつまじ

　　滋岐院信市付のうた

なにしおはば時のをそ花の色をうつろふ

いろいろのこころをそよせてふきたてる

　　同

玉ぼこのみちのくにの春のはてのいつなるらむ

おほ一百年のうちの舞ふ

波さわぐ池の水鳥毎年の風やこのきみる

同ころ摺をよめる

かつらのくまもちはやまもりはやくをすてこころりそれ

仙洞鈴久　　右歌左

さとめかさうおせのかのあめはらくいろてつをまさきへこそ

山家雨友　　同左

ちむしさまさてこそ平山屋はせのうそよりしきみよとふく

讃岐院位署時左

讃岐院位署時左

ふるあめのはしおふ事をよめる

もよ彩佛のをそうやまちとふ森のあしよおそしして

続世到山家

ふるやまさ行のまあいおそうもあれこの宿よるくそたし

讃岐院の位の時の百首の内

暁郭公といふ事を

ほとゝきすいまこえそ乃田家雨

ふるしつのふるあれそをしさくてさ

ふれとのふるあれそをしさくてさ

杜不知年　　右歌左

ほとゝきすなくやさ神をしよそ住よの杜

さぬきの俤にてもとゝ神をしよそ住よの杜

九そまのこゝろ式うもふ是非のよそ

砌下水　　右歌左

海路述懐

澄性院住の寺付のそ

サ羽基家朝臣奉る

返

贊岐院住のおそ

田中駅を　勺題百そ

海上眺望

続拾遺雑上

はるばるとうらみはてのそらこめて
いくへかすみをへだてきぬらん

暁銭人　百首

あさぼらけありあけのやまのしらぎぬの
さやさやかにもおもほゆるかな

同院左衛門督

秋風にまがきのつゆのこぼれきて
ひとりやまたむ宿の月かげ

新拾遺哀　おもイ新拾

ものおもふころのあきのねざめかな
あさぢが露にやどる月かげ

もゝをしくこゝろよりある
あだほのをなごりそれはこゝろをそれたのむこゝろ
りをいくるのまん白なるこゝろをと
こゝろぬるこゝろもるれもこゝろ
うこゝろつひわれいこゝろをうこゝろも
こゝろあこゝろむこゝろ空ふ
はこゝろこゝろのこゝろ百こゝろ

栄花物語

第二巻　三条たゝへる
おとゝのこゝろ多ふはこゝろつく

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

遊女不定宿　　勾題百字

齡及七旬情迷六義然而猶携君之風骨養
我之露命再遇中興之節将動下愚之性而
已

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

返一言

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用

れそのたち
ものぬのおもはすらくらの秋し訪のあるさまのくれ
観身論命旦暮在近述懐言志心情鄙体但
寄源流愁呈雑體
混本哥
おいそそもやそめくあそ秋
長哥
むくこつのおもそぬくにそそてうそまれ
旋頭哥
かそそそのそまそうるおそ多とまりふまて嵐のふそうん

短哥
ちそやふる神のこようままりつーのようなるふそ
そそなそうあそこまをあってもそをもこれそうそのの
の秋そそあそうみのあるなの秋そむのもまも
あそそうみの浪まそようふこのもめ鳥こうそうあそ
ひうたまのこーのこたくなそそいまのやまも
しまあこーふそそそそそものそれる

返哥
おいぬまそよるくまーとうおそしむ
諸皮波をふうをまをまて一時そて

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2
ガラス使用

117
105
2

国立国会図書館　タイトル『丹鶴叢書』 請求記号 117-2

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『丹鶴叢書』　請求記号 117-2

ガラス使用